

二〇二二年三月一九日

春田打つ彼方一引く新幹線

なつき

農家カフェBGMは百千鳥

かかし

白山を水面に残し鴨帰る

凡士

発掘の欠片のどけし刷毛かくる

かかし

裏門の地蔵に供花や卒業子

愛正

思惟仏の指先にある春愁かな

よし子

童歌口遊みつつ青き踏む

わかば

離陸機のJALと読めたる春霞

よう子

息づきのとまり初蝶翔ちにけり

素秀

遠霞富士の天辺浮ぶ見ゆ

むべ

家苞に諸子を買ひぬ膳所の旅

よし子

八十路なほ夢のありけり雛飾る

よし子

青き踏む双子の靴の色違ひ

なつき

落椿踏みとどまりし池塘かな

宏虎

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年三月二〇日

S Lの黒煙たかく山笑ふ

はく子

鶯の声聞き分けて里暮し

よう子